

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 三重県立木本高等学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 519-4394

三重県熊野市木本町 1101-4

E-mail hkimotad@mxs.mie-c.ed.jp

Website http://www.mie-c.ed.jp/hkimot/

幼児児童生徒数 男子 253 名 女子 326 名 合計 579 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

熊野古道、紀伊山地の霊場とその参詣道が世界遺産に登録され、本校の立地する地域には、松本峠、浜街道、鬼ヶ城がある。ESD が掲げる持続可能な社会作りの一端として、本校では世界遺産や地域の文化財等に関する教育とともに、南海トラフで発生するプレート型巨大地震および津波に備え、防災・減災教育を進めていくことを活動のテーマとして定めている。

### ① 熊野古道・防災プロジェクトに係わる活動

熊野古道プロジェクトは、熊野古道松本峠と浜街道の清掃活動と保全、および語り部ガイドの育成である。近年、熊野地域の過疎化や語り部ガイドの高齢化の中、熊野古道観光者においては国内外から根強い人気がある。世界遺産の文化的価値を次世代に継承できる後継者の育成を目標に掲げ、取り組みを平成 24 年から行っている。

防災プロジェクトは、災害時に「校内にいる」「登校時である」の 2 つの想定から、校内の場合は学校周辺の裏山に避難する際、3 つのルートを作り、学年ごとにルートをかえて 3 年間ですべてのルートを把握するという避難訓練を行っている。

②熊野古道・防災プロジェクトに係わる教育

今年度より、三重県熊野農林事務所と協力して、熊野地域学講座を設定し、ふるさとに生きる喜びと誇りをテーマに、地元で活躍する外部講師を招いての講演会を年間4回開催した。また、三重大学との連携事業、東紀州サテライトも3年目を迎え、東紀州の再発見と位置づけて地元で活躍する事業家や活動家をゲストに迎えての講演会を年間6回開催した。いずれも自分のふるさとをよく知るとともに、将来、何らかの形でふるさとのために貢献できる人間を育成することが目的である。

③熊野古道プロジェクトに係わる学習

1学期と3学期に学校周辺の清掃活動を、学校行事として行った。その際、1学期は熊野古道松本峠を清掃区域に加え、清掃および古道の保全活動を行った。3学期には浜街道を含む七里御浜の清掃活動を行った。語り部ガイドの養成としては、外国人観光者に対する英語ガイドも含めて、実際に松本峠から鬼ヶ城を歩き、2年生が英語と日本語でガイド説明を行い、1年生はメモをとりながら実際に自分がガイドをするならどのように説明するかを考えさせた。

④防災プロジェクトに係わる学習

登校時の際に地震・津波に遭遇した場合を想定して、熊野市駅から本校までのルートの中で、いくつかの避難経路を実際に歩いて確認し、危険箇所はないか、どの経路が有効かなどを考えさせながら、クラスごとに歩き、後日、クラスで問題点を挙げて考察させる取り組みを行っている。これはクラスメイトとともに考え、課題を出し合い、それらを共有することによって、実際の災害時にも協力して避難に取り組む素養を養うものである。



熊野古道プロジェクト 語り部ガイド養成



熊野古道プロジェクト 七里御浜の清掃



防災プロジェクト 学校時の避難訓練



防災プロジェクト 登校時の避難場所



熊野地域学 講演会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(学校行事等	)

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

熊野古道・防災プロジェクト、ともに学校行事や総合的な学習の一環として、指導計画を立てて実施している。熊野古道語り部ガイドの養成については、JRC部を中心に取り組みを進め、他の有志の生徒に向けても参加を募っている。各係が実施要項を作成して教員全体に周知させ、実施については全校行事であったり、学年、クラスごとの取り組みであったりするので、それぞれに責任を持って対応させている。実施後は、生徒教員それぞれにアンケートなどを実施して、次年度への工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクール担当は校内に一名であるが、実施する内容が学校行事や学年行事であったりするので、その際には教員全体や学年団全体で取り組み、事後反省を行って次年度への工夫改善に努めている。今後は、本校のテーマを周知徹底させ、様々な活動において生徒、教員にそれを意識させられるような取り組みを進めていきたいと考える。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

各行事を行った際に、生徒、教員にアンケートを実施して、次年度への工夫改善を図る取り組みを進めている。防災プロジェクトにおいては、生徒たちの在学中の積み上げはあるが、次の世代の生徒たちに伝えられるような、本校の遺産となるような取り組みを進めていくべきであると考え、今後の課題としたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

学校行事や講演会については、地元紙に掲載を依頼し、講演会などへの外部からの参加についても、申し出があれば受け入れている。校内での共有は進んでいるが、外部への発信については今後の課題としたい。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

三重大大学の地域連携事業として、校内に東紀州サテライトという拠点を置いている。3名の講師が担当しており、うち2名の講師による出前授業、総合的な学習としての外部講師の講演会などを行っている。今年度は大学の研究内容の紹介という授業も行った。  
三重県熊野農林事務所との協働として、熊野地域学講座を今年度は4回実施した（3学年2回、1・2学年各一回）。これは地域の産業や文化・歴史を高校生たちに紹介するとともに、地域に目を向けて、将来何らかの形で地域貢献できるような人材を育成するのが目的である。来年度は、回数を6回に増やして実施していきたいと計画している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

三重大大学ユネスコサークル主催の外国人留学生の熊野古道ウォークイベントに、本校生徒による語り部ガイドをつけて交流を図っている。昨年まで3年間実施したが、今年度は日程の調整に折り合いが付き、実現に至らなかった。次年度は何らかの形で実施したいと考える。

- ⑧ ユネスコスクール活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

本校は紀伊半島南部に位置し、世界遺産熊野古道がすぐそばにあるという立地条件に恵まれている。また、七里御浜まで数百m、海拔6.7mに建っているため、巨大地震における津波や集中豪雨などの災害が身近に発生する環境下にある。この正と負の条件を生かした取り組みを進めていくのが、ユネスコスクールとしての本校のあり方であると考えている。また、様々な取り組みのテーマとして、ふるさとに生きる喜びと誇りということが根底にあると考え、今後もここにつながるような取り組みにしていきたいと考える。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度は、引き続き熊野古道・防災プロジェクトの2つをテーマとし、同様の活動を進めていきたいと考える。熊野古道プロジェクトでは、29年度に実施できなかった外国人観光者の古道ガイドを実施したいと考える。また、防災プロジェクトにおいては避難経路だけでなく、学校が避難先となった際に、高校生たちが地域にいかに関与できるかを考えさせたい。さらには、熊野地域学において、その学習機会を増やし、様々な分野を知るとともに、地域住民と一緒にできる活動を模索していきたいと考える。